

これまでの研究から

平成16年～19年には田原中校区の小中学校において「よりよい生き方を求める子どもの育成を目指した道徳教育の推進」を主題に掲げ、小中連携し研究に取り組んだ。

平成20年～22年には本事業において、教師一人ひとりの「道徳の時間」の実践指導力の向上を目指して、32公開授業を実施するとともに、教育委員会指導主事より指導・助言を受け、実践の蓄積を図った。また、佐藤弘氏（西日本新聞社編集委員）や澤田浩一氏（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）の講演会を実施した。

さらに、平成23年～25年に引き続き本事業の委嘱を受けた。一年次は、道徳の時間の指導方法の研究をテーマに、2年次は道徳の時間の指導内容の研究、3年次は道徳の時間の指導方法・内容の研究をテーマに掲げ研究推進を図った。3年次とも、道徳校内研修を重ね、年度末には第1学年の全クラスで公開授業を行い毎回全市から100名程度の教員が参加した。また公開授業にあわせて、1年次には青木晃司氏（福岡教育大学大学院教授）、2・3年次には澤田浩一氏（同上）の講演会を行った。さらに本事業を通して、他の教育活動と道徳教育の関連を強化し、また道徳的環境の充実（校内環境・資料、指導案の蓄積）を図ることができた。これらの取組によって、本校においては教師一人ひとりの実践指導力が向上したとともに、学校全体の道徳教育力につながった。

1 研究主題

主 題「豊かな心を育む道徳教育の推進」

副主題「道徳の授業における言語活動の充実」

2 主題設定の理由

《今後の社会における道徳教育の重要性から》

インターネットや携帯電話等を通じたコミュニケーションが更に進む一方で、その影の部分への対応も課題となっている。また、昨今大きな社会問題となっているいじめの防止の観点からも、人間の在り方に関する根源的な理解を深めながら、社会性や規範意識、善悪を判断する力、思いやりや弱者へのいたわりなどの豊かな心を育むことが求められている。

《本校の現状から》

本校はこれまで生徒指導にかかわる事象等が多く発生し、必ずしも落ち着いたという状況ではなかったが、さまざまな取り組みが功を奏し、授業等は落ち着きを見せている。しかし生徒指導に関する事象は依然として多く残っており、学年によっては指導に困難を感じる状況も見られる。そこで「生徒一人ひとりの個性や能力を啓発し、たくましい体、豊かな心、優れた知性をもった人間性豊かな生徒の育成を目指す」の学校教育目標のもと、本校の生徒の実態、地域の実態を明らかにし、日常の体験活動や学校行事を通して得た実感を大切に、日々の道徳の授業を充実させることによって、生徒の内面に根ざした道徳性の育成、豊かな心の育成を目指す。生徒と共に考え、心に響く道徳の授業の実践と教員の道徳教育に対する興味、関心、資質の向上を図ることを目指し、研究を推進する。

○ 副主題設定の理由

中学校学習指導要領にも

（「第3章 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」の3）

（4）自分の考えをもとに、書いたり、討論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接するなかで、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるようにすること。

とある。このように学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。道徳の時間においても、自分の考えをまとめて人に分かりやすいように書いたり発表したりして表現する機会を設けることが、生徒自身の考えを自分自身で確かめたり、自分自身の道徳的成長を実感したりする格好の機会となる可能性があると考え本年度の重点目標として設定した。

【参考資料】

文部科学省 「中学校学習指導要領解説 道徳編」

平成25年度 道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）案」

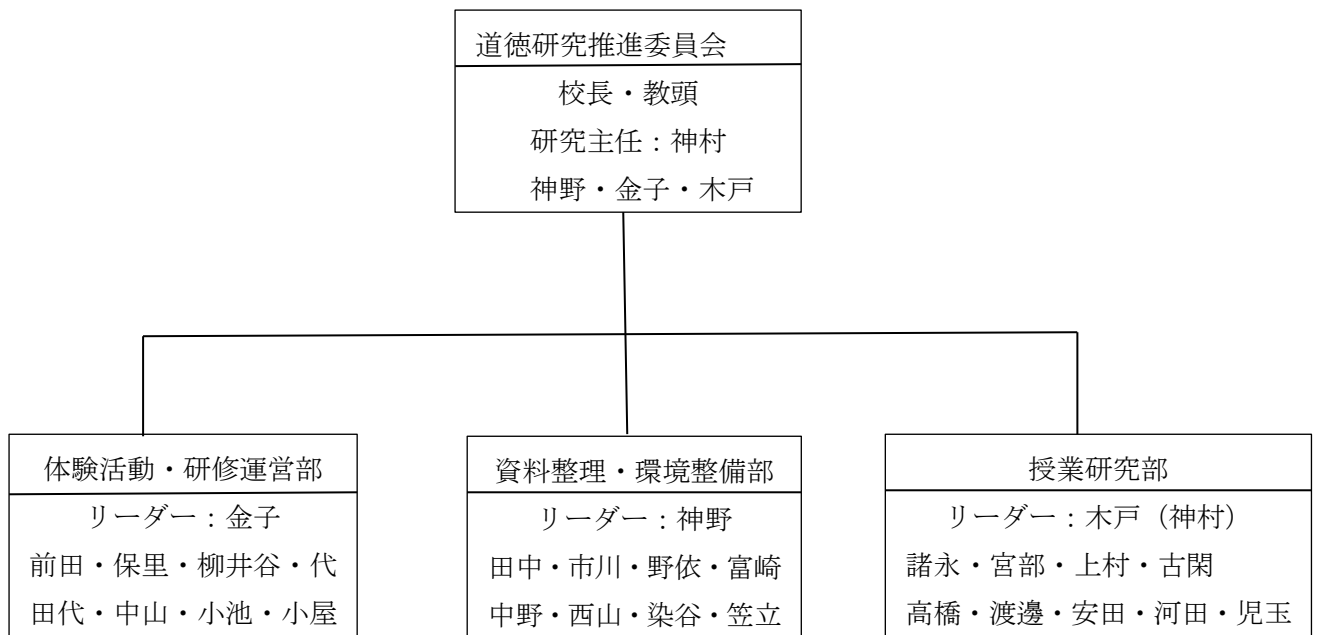
3 研究の仮説

学校や地域の実態に応じた豊かな体験活動や、学校行事を意図的・計画的に実施し、その課程の中で適切な資料を活かし、道徳の授業を行うことや、日常の道徳の授業を工夫・改善することで、生徒一人一人の「心に響く道徳の授業」となり、生徒の内面に根ざした道徳性の育成、豊かな心の育成に結びつくであろうと考える。

4 研究の目標

現在の本校における道徳教育の位置づけを明確にし、道徳に関する実態調査を進めながら、道徳に関する共通理解や、研究的な実践を行い、指導力の向上を図るとともに、生徒の道徳性の育成を目指す。

5 研究組織



【研究推進委員会】

- ・研究の全体構想立案、研修の企画、渉外関係（講師依頼等）、研究のまとめ
- ・年間の授業計画を立て、毎週の道徳授業の提案を行う。
- ・道徳通信の発行、保護者、地域への情報発信（ホームページなど）

【体験活動・研修運営部】

- ・総合的な学習の時間や学校行事の計画段階で、道徳の授業を意図的に計画する。（弁当の日、地域清掃活動、宿泊行事等）
- ・校内研修、公開授業の運営（資料準備、接待など）

【資料整理・環境整備部】

- ・生徒の実態調査やアンケート調査の集約
- ・校内掲示物の管理や道徳的環境づくり補助（パネルなど）

【授業研究部】

- ・公開授業に向けた指導案作りと学年協議会の実施。
- ・公開授業に向けローテーション授業等を計画的に実施し、授業検証を行う。

6 年次計画 (予定)

1年次 平成26年度・・・本年度

「豊かな心を育む道德教育の推進」

～道德の授業における言語活動の充実～

- 1 校内研修の実施（1・2学期）
 - ・授業検証と講師による講話
- 2 公開授業の実施（3学期）
 - ・当該学年全学級の公開授業、協議会の開催
- 3 道德の時間と他の教科等との関連付けの強化
- 4 研究体制の整備と「道德の時間の年間計画」の実質化

2年次 平成27年度

「豊かな心を育む道德教育の推進」

～「道德的実践力」の育成につながる技法的な指導方法の工夫～

- 1 校内研修の実施（1・2学期）
 - ・授業検証と講師による講話
- 2 公開授業の実施（3学期）
 - ・当該学年全学級の公開授業、協議会、講演会の開催
- 3 道德の時間と他の教科等との関連付けの強化
- 4 「道德の時間の年間計画」の実質化と道德的環境の充実

3年次 平成28年度

「豊かな心を育む道德教育の推進」

～「道德の特性」を生かした多様な評価方法に関する研究～

- 1 校内研修の実施（1・2学期）
 - ・授業検証と講師による講話
- 2 公開授業の実施（3学期）
 - ・当該学年全学級の公開授業、講演会の開催
- 3 道德の時間と他の教科等との関連付けの強化
- 4 研究の成果の蓄積と活用

7 平成 26 年度 研究推進計画案

※○の数字は学年

《2年》

《3年》

《1年》

時期	学校行事・研修等	研究推進委員会	体験・研修運営部	資料・環境整備部	授業研究部
5月	13日 道徳研修	研究部会 研修資料作成			
	26日 弁当の日	・弁当の日に関連した資料の選定と指導案づくり ・食育担当と共同で掲示物（生徒の感想など）作成			
	ふれあい合宿①	道徳通信発行			ふれあいと関連した資料
6月	・上旬 道徳アンケート Q-Uテスト①②	研究部会 道徳通信発行		アンケート集約	
	・中旬 校内研修会	・アンケート結果考察 ・3年ローテーション授業に向けて指導案作成			
	・ローテーション授業③	・3年→ローテーション授業を実施、授業検証（レポート作成） ・3年ローテーション授業に向けての準備			
	・修学旅行③ ・農泊②		農泊と関連	修学旅行と関連	
7月	ローテーション授業③	・3年→ローテーション授業を実施、授業検証（レポート作成）			
8月	夏季休業中 1学期の課題と2学期に向けて				
9月	・体育大会	研究部会 道徳通信発行			
10月	25日 地域清掃 ・合唱コンクール	研究部会 小学校との連携 道徳通信発行	活動の記録 （写真）まとめ	活動後の感想 まとめ	地域清掃と関連した資料
11月	ローテーション授業② 27日 校内研修会※1	・2年→ローテーション授業を実施、授業検証（レポート作成） ・公開授業、指導案作成にむけて学年協議会			
		研修会運営	接待	資料印刷	
12月	公開授業準備 ローテーション授業①	研究部会 道徳通信発行			1年ローテーション授業 授業検証 学年協議会 【指導主事】
1月	公開授業準備	研究部会 道徳通信発行			
2月	4日 全市公開授業 ※2	渉外・運営	接待	資料印刷補助	
3月	研究のまとめと課題	・レポート集作成			